

平成28年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法

入力シート・コンバートツール Ver1.1.0β仕様書  
(20190813)

国立研究開発法人建築研究所

国土交通省国土技術政策総合研究所

最終更新 令和元年 8 月 13 日

## はじめに

入力シート・コンバートツールとは、「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版) ver.2」の入力シートから「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートを生成するためのツール (オンラインツール) である。「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版) ver.2」の入力シートをアップロードすると「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートをダウンロードすることができる。本資料は、「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力情報から「モデル建物法入力支援ツール」の入力シートを作成する方法を規定したものである。

なお、コンバートした結果を省エネ基準の適合性判定や届出に使用する場合は、使用者の責任において本ツールで得られたモデル建物法の入力情報が適切であることを確認し、必要に応じて手作業で調整したうえで使用されたい。

## 第1章 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」の入力シートの分割

「様式1:⑦モデル建物」を参照し、適用するモデル建物毎に「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」の入力シートを分割する。以後の作業は、この分割されたシート毎に行うこととする。

空気調和設備については、様式2-1で規定される「空調ゾーン」に室に属する室の「様式1:⑦モデル建物」によって、モデル建物毎に分離をすることにする。ただし、同じ空調ゾーンに異なるモデル建物となる室が属する場合は、エラーを返すこととする。空気調和設備以外については、各設備が設置される室の「様式1:⑦モデル建物」によって、モデル建物毎に分離をする。また、様式8の「非空調ゾーン」は様式1の室と1対1で対応するものとし、対応する室がない場合はエラーを返すこととする。

### 様式1.(共通)室仕様入力シート

① 階	① 室名	② 建物用途 (選択)	② 室用途 (選択)	③ 室面積 [㎡]	④ 階高 [m]	⑤ 天井高 [m]	⑥ 空調計 算対象 室 (選択)	⑥ 換気計 算対象 室 (選択)	⑥ 照明計 算対象 室 (選択)	⑥ 給湯計 算対象 室 (選択)	⑦ モデル建物	⑧ 備考
1F	風除け室	事務所等	廊下	21.12	5	2.6			■		事務所モデル	
1F	ロビー	事務所等	ロビー	114.12	5	3.5	■		■		事務所モデル	
1F	EVホール	事務所等	廊下	16.32	5	3.5	■		■		事務所モデル	
1F	中央監視室・警備室	事務所等	中央監視室	39	5	2.6	■		■	■	事務所モデル	
1F	更衣室1	事務所等	更衣室又は倉庫	14.63	5	2.4	■		■		事務所モデル	
1F	更衣室2	事務所等	更衣室又は倉庫	14.63	5	2.4	■		■		事務所モデル	

図 1-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式1(共通)室仕様入力シート

## 第2章 基本情報

様式 0. 基本情報入力シート

①	シート作成月日	年 月 日			
②	入力責任者	XXX XXX			
③	建物の名称	サンプル事務所ビル			
④	建築物所在地	都道府県	東京都	市区町村	千代田区
⑤	省エネ基準地域区分	6			
⑥	構造				
⑦	階数	地上		地下	
⑧	敷地面積 [㎡]				
⑨	建築面積 [㎡]				
⑩	延べ面積 [㎡]	10352.79			
⑪	年間日射地域区分	A3			
⑫	「他人から供給された熱」の一次エネルギー換算値(冷熱)	1.36			
⑬	「他人から供給された熱」の一次エネルギー換算値(温熱)	1.36			

図 2-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 0 基本情報入力シート

様式 9. (共通)モデル建物設定シート

① モデル建物 (選択)	計算対象部分の諸元						非空調コア部		⑩ 備考
	② 床面積 [㎡] (入力)	③ 空調対象床面積 [㎡] (入力)	階数		⑥ 階高の合計 [m] (入力)	⑦ 外周長さ [m] (入力)	⑧ 方位 (選択)	⑨ 長さ [m] (入力)	
			④ 地上 [階] (入力)	⑤ 地下 [階] (入力)					
事務所モデル	10352.79	7509.37	7	0	29	153.6	東	35.5	

図 2-2 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 9(共通)モデル建物設定シート

### 様式A 基本情報入力シート

① シート作成月日				
② 入力責任者				
③ 建物名称*	サンプル事務所ビル 事務所モデル			
④ 建築物所在地	都道府県		市区町村	
⑤ 省エネルギー基準地域区分*	6地域			
⑥ 年間日射地域区分**	A3区分			
⑦ 延べ面積 [㎡]	10352.79			
⑧ 建築基準法施行規則別記様式に定める用途	記号			
	用途の区分			
⑨ モデル建物法で適用する建物モデルの種類*	建物用途	事務所モデル		
	室用途 (集会所等の場合のみ)			
⑩ 計算対象部分の床面積 [㎡]*	10352.79			
⑪ 計算対象部分の空調対象床面積 [㎡]*	7509.37			
⑫ 計算対象部分の階数*	地上	7	地下	0
⑬ 計算対象部分の階高の合計 [m]*	29			
⑭ 計算対象部分の外周長さ [m]*	153.6			
⑮ 計算対象部分の非空調コア部*	方位	東	長さ [m]	35.5

図 2-3 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 A 基本情報入力シート

- ・ 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式0、様式9) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式A) の各項目に情報を入力する。

様式A：③建物名称

→ 様式0：③建物の名称 + 様式9：①モデル建物 を入力する。

様式A：⑤省エネルギー基準地域区分

→ 様式0：⑤省エネ基準地域区分 を入力する。

様式A：⑥年間日射地域区分

→ 様式0：⑥年間日射地域区分 を入力する。

→ 「様式0：⑥年間日射地域区分」が空欄の場合は、空欄とする。

様式A：⑦延べ面積

→ 様式0：⑩延べ面積 を入力する。

様式A：⑨モデル建物法で適用するモデルの種類

→ 様式9：①モデル建物 を入力する (集会所モデルの場合は2行に分かれる)

様式A：⑩計算対象部分の床面積

→ 様式9：②床面積 を入力する。

様式A：⑪計算対象部分の空調対象床面積

→ 様式9：③空調対象床面積 を入力する。

様式A：⑫計算対象部分の階数 (地上)

→ 様式9：④階数 地上 を入力する。

様式A：⑫計算対象部分の階数 (地下)

→ 様式9：⑤階数 地下 を入力する。

様式A：⑬計算対象部分の階高の合計

→ 様式9：⑥階高の合計 を入力する。

様式A：⑭計算対象部分の外周長さ

→ 様式9：⑦外周長さ を入力する。

様式A：⑮計算対象部分の非空調コア部 方位

→ 様式9：⑧方位 を入力する。

様式A：⑯計算対象部分の非空調コア部 長さ

→ 様式9：⑨長さ を入力する。

### 第3章 空気調和設備 (外皮)

様式 2-1. (空調)空調ゾーン入力シート

室の仕様							空調ゾーン		空調機群名称		⑤ 備考
① 階 (転記)	① 室名 (転記)	① 建物用途 (転記)	① 室用途 (転記)	① 室面積 [m <sup>2</sup> ] (転記)	① 階高 [m] (転記)	① 天井高 [m] (転記)	② 階	② 空調ゾーン名	③ 室負荷処理 (転記)	④ 外気負荷処理 (転記)	
1F	ロビー	事務所等	ロビー	114.12	5	3.5	1F	ロビー	FCU1-1	FCU1-1	
1F	EVホール	事務所等	廊下	16.32	5	3.5	1F	EVホール	FCU1-2	FCU1-2	
1F	中央監視室・警備室	事務所等	中央監視室	39	5	2.6	1F	中央監視室・警備室	EHP1-1	EHP1-1	
1F	更衣室1	事務所等	更衣室又は倉庫	14.63	5	2.4	1F	更衣室1	EHP1-2	EHP1-2	

図 3-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-1(空調)空調ゾーン入力シート

様式 2-2. (空調)外壁構成入力シート

※ 建材名称は室内側から記入

① 外壁名称	② 壁の種類 (選択)	③ 熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]	④ 建材番号 (選択)	⑤ 建材名称 (選択)	⑥ 厚み [mm]	⑦ 備考
R1	外壁			室内側		
			70	ロックウール化粧吸音板	12	
			62	せっこうボード	10	
			302	非密閉中空層		
			41	コンクリート	150	
			47	セメント・モルタル	15	
			103	アスファルト類	5	
			47	セメント・モルタル	15	
			181	押出法ポリスチレンフォーム 保温板 1種	50	
			41	コンクリート	60	
				室外側		
W1	外壁			室内側		
			62	せっこうボード	8	
			302	非密閉中空層		
			181	押出法ポリスチレンフォーム 保温板 1種	25	
			41	コンクリート	150	
			47	セメント・モルタル	25	
			67	タイル	10	
	室外側					

図 3-2 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-2(空調)外皮構成入力シート

様式 2-3. (空調)窓仕様入力シート

① 開口部名称	② 窓の 熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]	③ 窓の 日射熱取得率 [-]	窓(ガラス+建具)の性能			
			④ 建具の種類 (選択)	⑤ ガラスの性能		
				⑤ ガラスの種類 (選択)	⑥ 熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] (入力)	⑦ 日射熱取得率 [-] (入力)
G1			アルミ	T		

図 3-3 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-3(空調)窓仕様入力シート

様式 2-4. (空調)外皮仕様入力シート

① 階 (転記)	① 空調ゾーン名 (転記)	外皮構成							
		② 方位 (選択)	③ 日除け効果係 数(冷房) [-]	③ 日除け効果係 数(暖房) [-]	壁		開口部		
					④ 外壁名称 (転記)	⑤ 外皮面積 (窓含) [㎡]	⑥ 開口部名称 (転記)	⑦ 窓面積 [㎡]	⑧ ブラインドの 有無 (選択)
1F	ロビー	南			W1	50	G1	16.64	無
		日陰			FG1	114.12			
1F	EVホール	日陰			FG1	16.32			
1F	中央監視室・警備室	南			W1	38.8	G1	5.32	有
		西			W1	12.5			
		日陰			FG1	39			
1F	更衣室1	日陰			FG1	14.63			
1F	更衣室2	日陰			FG1	14.63			
1F	休憩室	日陰			FG1	29.25			
1F	事務室1	北			W1	117.5	G1	15.96	有
		西			W1	75	G1	10.64	有

図 3-4 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-4(空調)外皮仕様入力シート

様式 8. (外皮) 非空調外皮仕様入力シート

① 階	非空調ゾーン仕様					外皮構成								⑩ 備考
	① 非空調ゾーン名	① 建物用途	① 室用途	① 室面積 [㎡]	① 階高 [m]	② 方位 (選択)	③ 日除け効果係 数(冷房) [-]	③ 日除け効果係 数(暖房) [-]	壁		窓			
									④ 外壁名称 (転記)	⑤ 外皮面積 (窓含) [㎡]	⑥ 窓名称 (転記)	⑦ 窓面積 [㎡]	⑧ ブラインドの 有無 (選択)	
1F	非空調室合計	事務所等	機械室	707.15	4	北			W1	65.2				
						東			W1	154				
						南			W1	51.6	G1	16.8	無	
						西			W1	34				
2F	非空調室合計	事務所等	廊下	376.1	4	東			W1	88				
						南			W1	26	G1	1.62	無	
						西			W1	28	G1	1.08	無	
3F	非空調室合計	事務所等	廊下	376.1	4	東			W1	88				
						南			W1	26	G1	1.62	無	
						西			W1	28	G1	1.08	無	
4F	非空調室合計	事務所等	廊下	376.1	4	東			W1	88				
						南			W1	26	G1	1.62	無	
						西			W1	28	G1	1.08	無	

図 3-5 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 8(外皮)非空調外皮入力シート

様式B-1 開口部仕様入力シート

① 建具仕様名称 (入力)	②&③入力 又は ④入力			⑤&⑥入力 又は ⑤&⑦&⑧入力 又は ⑨&⑩入力						⑪ 備考 (20文字まで)
	幅 W [m] (入力)	高さ H [m] (入力)	窓面積 [m <sup>2</sup> ] (入力)	建具の種類 (選択)	窓(ガラス+建具)の性能			窓(ガラス+建具)の性能		
					ガラスの性能			ガラスの性能		
					ガラスの種類 (選択)	熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] (入力)	日射熱取得率 [-] (入力)	熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] (入力)	日射熱取得率 [-] (入力)	
1F ロビー SG1			16.64	アルミ	T					
1F 中央監視室・警備室 SG1			5.32	アルミ	T					
1F 事務室1 N G1			15.96	アルミ	T					
1F 事務室1 W G1			10.64	アルミ	T					

図 3-6 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 B-1 開口部仕様入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-3、様式 2-4、様式 8) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 B-1) の各項目に情報を入力する。様式 2-4 および様式 8 の各行について、次の処理を行う。ただし、処理は様式 2-4、様式 8 の順に行うこととする。

様式 B-1 : ①建具仕様名称

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ①階 + 様式 2-4 : ①空調ゾーン名 + (各空調ゾーンの中で何行目に入力されているか、その行数) + 様式 2-4 : ②方位 + 様式 2-4 : ⑥開口部名称 を入力する。
- 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ①階 + 様式 8 : ①非空調ゾーン名 + (各非空調ゾーンの中で何行目に入力されているか、その行数) + 様式 8 : ②方位 + 様式 2-4 : ⑥開口部名称 を入力する。

様式 2-4. (空調)外皮仕様入力シート

① 階 (転記)	① 空調ゾーン名 (転記)	外皮構成							
		② 方位 (選択)	③ 日除け効果係数(冷房) [-]	③ 日除け効果係数(暖房) [-]	壁		開口部		⑧ ブラインドの有無 (選択)
					④ 外壁名称 (転記)	⑤ 外皮面積(窓含) [m <sup>2</sup> ]	⑥ 開口部名称 (転記)	⑦ 窓面積 [m <sup>2</sup> ]	
1F	103軽食室兼学生ホール	北			OW1	13.2	OG3	9.1	有
		北			OW1	13.86	OG3	13.1	有
		東	0.27	0.29	OW1	93.06	OG3	13.62	有
		東	0.35	0.37	RW1	5.1	OG5	5.1	無

上の例の場合、

- ・ 1 行目の建具仕様名称 1F 103 軽食室兼学生ホール 1 北 OG3
- ・ 2 行目の建具仕様名称 1F 103 軽食室兼学生ホール 2 北 OG3
- ・ 3 行目の建具仕様名称 1F 103 軽食室兼学生ホール 3 東 OG3

- ・ 4行目の建具仕様名称 1F 103 軽食室兼学生ホール 4 東 OG5

様式 8. (外皮) 非空調外皮仕様入力シート

① 階	非空調ゾーン仕様					外皮構成					⑩ 備考			
	① 非空調ゾーン名	① 建物用途	① 室用途	① 室面積 [㎡]	① 階高 [m]	② 方位 (選択)	③ 日射係数(冷房) [-]	④ 日射係数(暖房) [-]	壁			窓		
									④ 外壁名称 (転記)	⑤ 外皮面積 (窓含) [㎡]		⑥ 窓名称 (転記)	⑦ 窓面積 [㎡]	⑧ ブラインドの有無 (選択)
1F	非空調室合計	事務所等	機械室	707.15	4	北			WH	65.2				
						東			WH	154				
						南			WH	51.6	G1	18.8	無	
						西			WH	34				

上の例の場合、

- ・ 1行目の建具仕様名称 1F 非空調室合計 3 南 G1

様式 B-1 : ②幅、③高さ

→ 空欄とする。

様式 B-1 : ④室面積

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ⑦窓面積 を入力する。
- 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ⑦窓面積 を入力する。

様式 B-1 : ⑤から⑩については、様式 2-3 から、様式 2-3 : ①開口部名称 が 様式 2-4 : ⑥開口部名称 または 様式 8 : ⑥開口部名称 と一致する列を見つけ出し、次のように情報を入力する。

様式 B-1 : ⑤建具の種類

→ 様式 2-3 : ④建具の種類

様式 B-1 : ⑥ガラスの種類

→ 様式 2-3 : ⑤ガラスの種類

様式 B-1 : ⑦ガラスの熱貫流率

→ 様式 2-3 : ⑥ガラスの熱貫流率

様式 B-1 : ⑧ガラスの日射熱取得率

→ 様式 2-3 : ⑦ガラスの日射熱取得率

様式 B-1 : ⑨窓の熱貫流率

→ 様式 2-3 : ②窓の熱貫流率

様式 B-1 : ⑩窓の日射熱取得率

→ 様式 2-3 : ③窓の日射熱取得率

様式B-2 断熱仕様入力シート

① 断熱仕様名称 (入力)	② 部位種別 (選択)	③&⑥入力又は③&④&⑥入力又は⑤&⑥入力又は⑦入力					⑧ 備考 (20文字まで)
		③ 断熱材種類 (大分類) (選択)	④ 断熱材種類 (小分類) (選択)	⑤ 熱伝導率 [W/(m·K)] (入力)	⑥ 厚み [mm] (入力)	⑦ 熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] (入力)	
W1	外壁					0.98	
R1	外壁					0.52	

図 3-6 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 B-2 断熱仕様入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-2) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 B-2) の各項目に次のように情報を入力する。ただし、様式 2-2 : ②壁の種類が「接地壁」である場合は、次の処理は行わない。

様式 B-2 : ①断熱仕様名称

→ 様式 2-2 : ①外壁名称 を入力する。

様式 B-2 : ②部位種別

→ 「外壁」とする。

様式 B-2 : ③~⑥

→ 空欄とする。

様式 B-2 : ⑦熱貫流率

→ 様式 2-2 : ③熱貫流率に値が入力されている場合は、その値を入力する。様式 2-2 : ③が空欄であり、様式 2-2 : ④建材番号と様式 2-2 : ⑥厚みに情報が記入されている場合は、熱貫流率を計算して値を入力する。

様式B-3 外皮仕様入力シート

① 外皮名称 (入力)	② 方位 (選択)	③&④入力又は⑤入力			⑥ 断熱仕様名称 (転記)	⑦ 建具仕様名称 (転記)	⑧ 建具等個数 (入力)	⑨ ブラインドの有無 (選択)	⑩ 日除け効果係数		⑪ 備考 (20文字まで)
		③ 幅 W [m] (入力)	④ 高さ H [m] (入力)	⑤ 外皮面積 [m <sup>2</sup> ] (入力)					冷房 (入力)	暖房 (入力)	
1F ロビー S	南			50.00	W1	1F ロビー S G1	1	無	1.00	1.00	
1F 中央監視室・警備室 S	南			38.80	W1	1F 中央監視室・警備室 S G1	1	有	1.00	1.00	
1F 中央監視室・警備室 W	西			12.50	W1						
1F 事務室 1 N	北			117.50	W1	1F 事務室 1 N G1	1	有	1.00	1.00	
1F 事務室 1 W	西			75.00	W1	1F 事務室 1 W G1	1	有	1.00	1.00	
1F 事務室 2 S	南			83.50	W1	1F 事務室 2 S G1	1	有	1.00	1.00	
1F 事務室 2 W	西			75.00	W1	1F 事務室 2 W G1	1	有	1.00	1.00	
2F 事務室 1 W	西			60.00	W1	2F 事務室 1 W G1	1	有	1.00	1.00	
2F 事務室 1 N	北			159.20	W1	2F 事務室 1 N G1	1	有	1.00	1.00	
2F 事務室 1 E	東			60.00	W1	2F 事務室 1 E G1	1	有	1.00	1.00	

図 3-7 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 B-3 外皮仕様入力シート

- ・ 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-4 および様式 8) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 B-3) の各項目に次のように情報を入力する。ただし、様式 2-2 から、様式 2-4 : ④外壁名称 または 様式 8 : ④外壁名称 と 様式 2-2 : ①外壁名称 が一致する行を見つけ出し、当該行の 様式 2-2 : ②壁の種類 が「接地壁」である場合は、以下の処理を行う必要はない。

#### 様式 B-3 : ①外皮名称

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ①階 + ①空調ゾーン名 + 様式 2-4 : ②方位を入力する。
- 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ①階 + ①空調ゾーン名 + 様式 8 : ②方位 を入力する。

#### 様式 B-3 : ②方位

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ②方位 より、表 3-1 のように読み替えて入力する。
- 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ②方位 より、表 3-1 のように読み替えて入力する。

#### 様式 B-3 : ③幅、④高さ

- 空欄とする。

#### 様式 B-3 : ⑤外皮面積

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ⑤外皮面積 を入力する。
- 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ⑤外皮面積 を入力する。

#### 様式 B-3 : ⑥断熱仕様名称

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ④外壁名称 を入力する。
  - 様式 8 から入力する場合、様式 8 : ④外壁名称 を入力する。
- ただし、④外壁名称 が空欄の場合は「外壁なし」とする。④外壁名称 が空欄のものが 1 つ以上ある場合、様式 B-2 に以下の断熱仕様を 1 行追加する。
- ・ ①断熱仕様名称 : 「外壁なし」
  - ・ ②部位種別 : 「外壁」
  - ・ ③断熱材種類 (大分類) : 「無」
  - ・ その他 : 空欄

#### 様式 B-3 : ⑦建具仕様名称

- 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4 : ①階 + ①空調ゾーン名 + 様式 2-4 : ②方位 + 様式 2-4 : ⑥開口部名称 を入力する。

→ 様式 8 から入力する場合、様式 8：①階 + ①空調ゾーン名 + 様式 8：②方位 + 様式 8：⑥開口部名称 を入力する。

様式 B-3：⑧建具等個数

→ 「1」とする。

様式 B-3：⑨ブラインドの有無

→ 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4：⑧ブラインドの有無 が「有」であれば「有」を入力する。

→ 様式 8 から入力する場合、様式 8：⑧ブラインドの有無 が「有」であれば「有」を入力する。

様式 B-3：⑩日除け効果係数 (冷房、暖房)

→ 様式 2-4 から入力する場合、様式 2-4：③日除け効果係数 (冷房、暖房) に値が入力されていれば、それらの値を入力する。

→ 様式 8 から入力する場合、様式 8：③日除け効果係数 (冷房、暖房) に値が入力されていれば、それらの値を入力する。

表 3-1 方位の読み替え

様式 2-4：②方位	様式 B-3：②方位
北、北東	北
東、南東	東
南、南西、	南
西、北西	西
水平	屋根
日陰	床

## 第4章 空気調和設備 (機器)

様式 2-5. (空調)熱源入力シート

① 熱源群名称	② 外気回送機有無 (選択)	③ 蓄熱システム 有無 (選択)	④ 蓄熱システム		⑥ 熱源機種 (選択)	⑦ 冷熱生成											⑩ 備考 (機器表の記号 系統名等)						
			④ 蓄熱システム 有無 (選択)	⑤ 蓄熱システム 容量 [MJ]		⑦ 冷熱生成						⑧ 冷卻機仕様			⑨ 温熱生成								
						⑦ 運転順位 (選択)	⑧ 台数 [台]	⑨ 風回大形 [°C]	⑩ 定格冷 却能力 [kW/台]	⑪ 主機 定格消費 電力 [kW/台]	⑫ 補機 定格消費 電力 [kW/台]	⑬ 一次ポン プ定格消 費電力 [kW/台]	⑭ 定格冷 却能力 [kW/台]	⑮ 冷卻塔 ファン消 費電力 [kW/台]	⑯ 冷卻水ポ ンプ消費 電力 [kW/台]	⑰ 運転順位 (選択)		⑱ 台数 [台]	⑲ 風回大形 [°C]	⑳ 定格暖 房能力 [kW/台]	㉑ 主機 定格消費 電力 [kW/台]	㉒ 補機 定格消費 電力 [kW/台]	㉓ 一次ポン プ定格消 費電力 [kW/台]
ARI	無	有			吸収式冷凍機(都市ガス)	1番目	1	7	703	639	6.6	7.5	1233	7.4	15	1番目	1	55	588	701	5.4	7.5	
					吸収式冷凍機(都市ガス)	2番目	1	7	703	639	6.6	7.5	1233	7.4	15	2番目	1	55	588	701	5.4	7.5	
EHP1-10	無	無			パッケージエアコンディショナ(温水)	1番目	1		5.6	1.37						1番目	1		6.3	1.34			
EHP1-20	無	無			パッケージエアコンディショナ(温水)	1番目	1		3.6	0.81						1番目	1		4	0.81			
EHP1-30	無	無			パッケージエアコンディショナ(温水)	1番目	1		3.6	0.81						1番目	1		4	0.81			
EHP1-40	無	無			パッケージエアコンディショナ(温水)	1番目	1		3.6	0.81						1番目	1		4	0.81			

図 4-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-5(空調)熱源入力シート

様式 2-6. (空調)二次ポンプ入力シート

① 二次ポンプ群名称	② 台数制 御の有 無 (選択)	③ 冷房時 温度差 [°C]	④ 暖房時 温度差 [°C]	⑤ 運転順位 (選択)	⑥ 台数	⑦ 定格流量 [m <sup>3</sup> /h台]	⑧ 定格消費 電力 [kW/台]	⑨ 流量制御 方式 (選択)	⑩ 変流量時最 小流量比 [%]	⑪ 備考 (機器表の記号、系統名等)
CHP2	有	5	5	1番目	1	89	7.5	定流量制御		
				2番目	1	89	7.5	定流量制御		

図 4-2 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-6(空調)二次ポンプ入力シート

様式 2-7. (空調)空調機入力シート

① 空調機群名称	② 台数 [台]	③ 空調機タイプ (選択)	④ 室内機 定格冷 却能力 [kW/台]	⑤ 室外機 定格冷 却能力 [kW/台]	⑥ 設計最大 外気流量 [m <sup>3</sup> /h台]	⑦ 送風機定格消費電力				⑩ 風量制御 方式 (選択)	⑪ 家庭用時 最小風量 比 [%]	⑫ 外気冷房 制御の有 無	⑬ 外気冷房 制御の有 無	⑭ 全熱交換器					⑮ 二次ポンプ 群名称		⑯ 熱源群名 称		⑰ 備考 (機器表の記号 系統名等)				
						⑦ 給気	⑧ 送気	⑨ 外気	⑩ 排気					⑭ 全熱交換器 の有無	⑮ 全熱交換器 の設計風 量	⑯ 全熱交換器 率	⑰ 自然換気 可換風の 有無	⑱ ロータリ ン消費電 力 [kW/台]	⑲ 冷熱	⑳ 温熱	㉑ 冷熱	㉒ 温熱					
EHP1-1	1	室内機	5.6	6.3	1280	0.05					定風量制御		無	無	有	200	60	無					EHP1-10	EHP1-10			
	1	全熱交換ユニット			200	0.17																					
EHP1-2	1	室内機	3.6	4	960	0.05					定風量制御		無	無										EHP1-20	EHP1-20		
	1	全熱交換ユニット			150	0.17																					
EHP1-3	1	室内機	3.6	4	960	0.05					定風量制御		無	無										EHP1-30	EHP1-30		
	1	全熱交換ユニット			150	0.17																					
EHP1-4	1	室内機	3.6	4	960	0.05					定風量制御		無	無										EHP1-40	EHP1-40		
	1	全熱交換ユニット			300	0.17																					
FCU1-1	1	FCU	6.79	6.77	1020	0.08					定風量制御		無	無										CHP2	CHP2	ARI	ARI
FCU1-2	1	FCU	2.7	2.62	360	0.04					定風量制御		無	無										CHP2	CHP2	ARI	ARI

図 4-3 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 2-7(空調)空調機入力シート

様式C-1 空調熱源入力シート

① 熱源機器名称 (入力)	② 熱源機種 (選択)	③ 台数 [台] (入力)	④ 一台当たりの 定格能力 [kW/台]		⑤ 一台当たりの 定格消費電力 [kW/台]		⑥ 一台当たりの 定格燃料消費量 [kW/台]		⑦ 備考  (20文字まで)
			冷房 (入力)	暖房 (入力)	冷房 (入力)	暖房 (入力)	冷房 (入力)	暖房 (入力)	
AR1 1	吸収式冷凍機	1	703		6.6		639		
AR1 2	吸収式冷凍機	1	703		6.6		639		
AR1 1	吸収式冷凍機	1		588		5.4		701	
AR1 2	吸収式冷凍機	1		588		5.4		701	
EHP1-10 1	パッケージエアコンディショナ(空冷式)	1	5.6		1.37		0		
EHP1-10 1	パッケージエアコンディショナ(空冷式)	1		6.3		1.34		0	

図 4-4 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 C-1 空調熱源入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-5) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 C-1) の各項目に次のように情報を入力する。熱源群毎ではなく、様式 2-5 の各行について次の処理を行う。また、冷房用熱源と暖房用熱源について、それぞれ独立して行を分けて入力をする事とする。

<冷房用熱源>

様式 C-1 : ①熱源機器名称

→ 様式 2-5 : ①熱源群名称 + 様式 2-5 : ⑦運転順位 (冷房) を入力する。

様式 C-1 : ②熱源機種

→ 様式 2-5 : ⑥熱源機種より、表 4-3 のように入力する。

様式 C-1 : ③台数

→ 様式 2-5 : ⑧台数 (冷房) を入力する。

様式 C-1 : ④定格能力 (冷房)

→ 様式 2-5 : ⑩定格冷却能力 (冷房) を入力する。

様式 C-1 : ⑤定格消費電力 (冷房)

→ 様式 2-5 : ⑥熱源機種 によって表 4-1 のように入力する。

様式 C-1 : ④定格燃料消費量 (冷房)

→ 様式 2-5 : ⑥熱源機種 によって表 4-1 のように入力する。

表 4-1 定格消費電力及び燃料消費量の入力方法(冷房)

様式 2-5：⑥熱源機種	様式 C-1：⑤定格消費電力 (冷房)	様式 C-1：⑥定格燃料消費量 (冷房)
燃料種類が「電力」である熱源機種	様式 2-5：⑪主機定格消費エネルギー (冷房) を入力する。	0 とする
機種が「地域熱供給(冷水)」である場合	0 とする。	「様式 2-5：⑩定格冷却能力 (冷房)」に「様式 0 ⑫他人から供給された熱の一次エネルギー換算値(冷熱)」を掛けた値。 ※ 「様式 0 ⑫」が空欄であれば 1.36 を使用する。
上記以外	様式 2-5：⑫補機定格消費電力 (冷房) を入力する。	様式 2-5：⑪主機定格消費エネルギー (冷房) を入力する。

<暖房用熱源>

様式 C-1：①熱源機器名称

→ 様式 2-5：①熱源群名称 + 様式 2-5：⑦運転順位 (暖房) を入力する。

様式 C-1：②熱源機種

→ 様式 2-5：⑥熱源機種より、表 4-3 のように入力する。

様式 C-1：③台数

→ 様式 2-5：⑧台数 (暖房) を入力する。

様式 C-1：④定格能力 (暖房)

→ 様式 2-5：⑩定格冷却能力 (暖房) を入力する。

様式 C-1：⑤定格消費電力 (暖房)

→ 様式 2-5：⑥熱源機種 によって表 4-2 のように入力する。

様式 C-1：④定格燃料消費量 (暖房)

→ 様式 2-5：⑥熱源機種 によって表 4-2 のように入力する。

表 4-2 定格消費電力及び燃料消費量の入力方法(暖房)

様式 2-5：⑥熱源機種	様式 C-1：⑤定格消費電力 (暖房)	様式 C-1：⑥定格燃料消費量 (暖房)
燃料種類が「電力」である熱源機種	様式 2-5：⑪主機定格消費エネルギー (暖房) を入力する。	0 とする
機種が「地域熱供給(温水)」もしくは「地域熱供給(蒸気)」である場合	0 とする。	「様式 2-5：⑩定格冷却能力 (暖房)」に「様式 0 ⑬他人から供給された熱の一次エネルギー換算値(温熱)」を掛けた値  ※ 「様式 0 ⑬」が空欄であれば 1.36 を使用する。
上記以外	様式 2-5：⑫補機定格消費電力 (暖房) を入力する。	様式 2-5：⑪主機定格消費エネルギー (暖房) を入力する。

表 4-3 熱源機種名称

様式 2-5：⑥熱源機種	様式 C-1：②熱源機種
ウォーターチリングユニット(空冷式)	ウォーターチリングユニット (空冷式)
ウォーターチリングユニット(空冷式モジュール形)	ウォーターチリングユニット (空冷式)
ウォーターチリングユニット(水冷式)	ウォーターチリングユニット (水冷式)
ウォーターチリングユニット(水冷式地中熱タイプ 1)	ウォーターチリングユニット (水冷式地中熱タイプ 1)
ウォーターチリングユニット(水冷式地中熱タイプ 2)	ウォーターチリングユニット (水冷式地中熱タイプ 2)
ウォーターチリングユニット(水冷式地中熱タイプ 3)	ウォーターチリングユニット (水冷式地中熱タイプ 3)
ウォーターチリングユニット(水冷式地中熱タイプ 4)	ウォーターチリングユニット (水冷式地中熱タイプ 4)
ウォーターチリングユニット(水冷式地中熱タイプ 5)	ウォーターチリングユニット (水冷式地中熱タイプ 5)
スクリー冷却機	スクリー冷却機
ターボ冷却機	ターボ冷却機
インバーターターボ冷却機	ターボ冷却機
ブライントーボ冷却機(蓄熱時)	ターボ冷却機
ブライントーボ冷却機(追掛時)	ターボ冷却機
ウォーターチリングユニット(空冷式氷蓄熱用)	ウォーターチリングユニット (空冷式)
ウォーターチリングユニット(空冷式モジュール形氷蓄熱用)	ウォーターチリングユニット (空冷式)
スクリー冷却機(氷蓄熱用)	スクリー冷却機
吸収式冷却機(都市ガス)	吸収式冷却機
吸収式冷却機(冷却水変流量、都市ガス)	吸収式冷却機(冷却水変流量)
吸収式冷却機(LPG)	吸収式冷却機
吸収式冷却機(冷却水変流量、LPG)	吸収式冷却機(冷却水変流量)
吸収式冷却機(重油)	吸収式冷却機
吸収式冷却機(冷却水変流量、重油)	吸収式冷却機(冷却水変流量)
吸収式冷却機(灯油)	吸収式冷却機
吸収式冷却機(冷却水変流量、灯油)	吸収式冷却機(冷却水変流量)
吸収式冷却機(蒸気)	吸収式冷却機
吸収式冷却機(冷却水変流量、蒸気)	吸収式冷却機(冷却水変流量)
吸収式冷却機(温水)	吸収式冷却機

蒸気ボイラ(都市ガス)	ボイラ
蒸気ボイラ(LPG)	ボイラ
蒸気ボイラ(重油)	ボイラ
蒸気ボイラ(灯油)	ボイラ
貫流ボイラ(都市ガス)	ボイラ
貫流ボイラ(LPG)	ボイラ
貫流ボイラ(重油)	ボイラ
貫流ボイラ(灯油)	ボイラ
小型貫流ボイラ(都市ガス)	ボイラ
小型貫流ボイラ(LPG)	ボイラ
小型貫流ボイラ(重油)	ボイラ
小型貫流ボイラ(灯油)	ボイラ
温水ボイラ(都市ガス)	ボイラ
温水ボイラ(LPG)	ボイラ
温水ボイラ(重油)	ボイラ
温水ボイラ(灯油)	ボイラ
温水発生機(都市ガス)	温水発生機
温水発生機(LPG)	温水発生機
温水発生機(重油)	温水発生機
温水発生機(灯油)	温水発生機
パッケージエアコンディショナ(空冷式)	パッケージエアコンディショナ (空冷式)
パッケージエアコンディショナ(水冷式熱回収形)	パッケージエアコンディショナ (水冷式熱回収形)
パッケージエアコンディショナ(水冷式)	パッケージエアコンディショナ (水冷式)
パッケージエアコンディショナ(水冷式地中熱タイプ1)	パッケージエアコンディショナ (水冷式地中熱タイプ1)
パッケージエアコンディショナ(水冷式地中熱タイプ2)	パッケージエアコンディショナ (水冷式地中熱タイプ2)
パッケージエアコンディショナ(水冷式地中熱タイプ3)	パッケージエアコンディショナ (水冷式地中熱タイプ3)
パッケージエアコンディショナ(水冷式地中熱タイプ4)	パッケージエアコンディショナ (水冷式地中熱タイプ4)
パッケージエアコンディショナ(水冷式地中熱タイプ5)	パッケージエアコンディショナ (水冷式地中熱タイプ5)
ガスヒートポンプ冷暖房機(都市ガス)	ガスヒートポンプ冷暖房機

ガスヒートポンプ冷暖房機(LPG)	ガスヒートポンプ冷暖房機
ガスヒートポンプ冷暖房機(消費電力自給装置付、都市ガス)	ガスヒートポンプ冷暖房機(消費電力自給装置付)
ガスヒートポンプ冷暖房機(消費電力自給装置付、LPG)	ガスヒートポンプ冷暖房機(消費電力自給装置付)
ルームエアコンディショナ	ルームエアコンディショナ
FF 式ガス暖房機(都市ガス)	FF 式暖房機等
FF 式ガス暖房機(LPG)	FF 式暖房機等
FF 式石油暖房機	FF 式暖房機等
地域熱供給(冷水)	地域熱供給
地域熱供給(温水)	地域熱供給
地域熱供給(蒸気)	地域熱供給
熱交換器	<入力なし>
電気式ヒーター	電気式ヒーター等
電気蓄熱暖房器	電気式ヒーター等
温風暖房機(都市ガス)	FF 式暖房機等
温風暖房機(LPG)	FF 式暖房機等
温風暖房機(重油)	FF 式暖房機等
温風暖房機(灯油)	FF 式暖房機等

## 様式C-2 空調外気処理入力シート

① 送風機名称  (入力)	② 台数 [台]  (入力)	③ 設計給気風量 [m <sup>3</sup> /h/台]  (入力)	④ 設計排気風量 [m <sup>3</sup> /h/台]  (入力)	⑤		⑦ 全熱交換器の 自動換気切換 機能の有無  (選択)	⑧ 予熱時外気取 り入れ停止の 有無  (選択)	⑨ 備考  (20文字まで)
				全熱交換器の全熱交換効率				
				冷房時 [%]  (入力)	暖房時 [%]  (入力)			
EHP1-1 室内機	1	1290	0					
EHP1-1 全熱交ユニット	1	200	0	60	60			
EHP1-2 室内機	1	960	0					
EHP1-2 全熱交ユニット	1	150	0	60	60			
EHP1-3 室内機	1	960	0					
EHP1-3 全熱交ユニット	1	150	0	60	60			
EHP1-4 室内機	1	960	0					
EHP1-4 全熱交ユニット	1	300	0	60	60			
FCU1-1 FCU	1	1020	0					
FCU1-2 FCU	1	360	0					

図 4-5 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 C-2 空調外気処理入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-7) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 C-2) の各項目に次のように情報を入力する。空調機群毎ではなく、様式 2-7 の各行について次の処理を行う。ただし、様式 2-7：⑥設計最大外気風量 及び 様式 2-7：⑩全熱交換器の設計風量 の両方が空欄である場合は、その行については次の処理を行う必要はない。

### 様式 C-2：①送風機名称

→ 様式 2-7：①空調機群名称 + 様式 2-7：④空調機タイプ を入力する。

### 様式 C-2：②台数

→ 様式 2-7：②台数を入力する。

### 様式 C-2：③設計給気風量

→ 様式 2-7：⑩全熱交換器の設計風量 を入力する。⑩が空欄であれば、様式 2-7：⑥設計最大外気風量 を入力する。

※ 「様式 2-7：⑥設計最大外気風量」は外気冷房時の最大外気量であり、設計給気風量ではない。しかし、「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シートからは、設計給気風量は判らないため、代わりに外気冷房時の最大外気量を入力することとしている。この処理の適正化は今後の課題である。

### 様式 C-2：④設計排気風量

→ 「0」とする。

### 様式 C-2：⑤全熱交換器の全熱交換効率 (冷房時)

→ 様式 2-7：⑰全熱交換効率 に値が入力されていれば、その値を入力する。入力されていなければ空欄とする。

様式 C-2：⑥全熱交換器の全熱交換効率 (暖房時)

→ 様式 2-7：⑰全熱交換効率 に値が入力されていれば、その値を入力する。入力されていなければ空欄とする。

※ 「様式 2-7：⑰全熱交換効率」は冷暖房平均の全熱交換効率であり、冷房／暖房別の値ではない。しかし、「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シートからは、冷暖房別の効率は判らないため、平均値を入力することとしている。この処理の適正化は今後の課題である。

様式 C-2：⑦全熱交換器の自動換気切り換え機能の有無

→ 様式 2-7：⑱自動換気切り換え機能の有無 が「有」であれば、「有」を入力する。

様式 C-2：⑧予熱時外気取り入れ停止の有無

→ 様式 2-7：⑲外気カット制御の有無 が「有」であれば、「有」を入力する。

**様式 C-3 空調二次ポンプ入力シート**

① 二次ポンプ名称  (入力)	② 台数 [台]  (入力)	③ 1台あたりの 定格流量 [m <sup>3</sup> /h台]  (入力)	④ 変流量制御の有無  (選択)	⑤ 備考  (20文字まで)
CHP2 1	1	89	無	
CHP2 2	1	89	無	

図 4-6 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 C-3 空調二次ポンプ入力シート

- ・ 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-6) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 C-3) の各項目に次のように情報を入力する。二次ポンプ群毎ではなく、様式 2-6 の各行について次の処理を行う。ただし、様式 2-6 に何も情報が入力されていない場合は、次の処理は行う必要はない。

様式 C-3：①二次ポンプ名称

→ 様式 2-6：①二次ポンプ群名称 +様式 2-6：④運転順位 を入力する。

様式 C-3：②台数

→ 様式 2-6：⑤台数を入力する。

様式 C-3：③1台あたりの定格流量

→ 様式 2-6：⑥定格流量を入力する。

様式 C-3：④変流量制御の有無

→ 様式 2-6：⑧流量制御方式が「回転数制御」であれば「有」と入力する。これ以外であれば「無」と入力する。

**様式 C-4 空調送風機入力シート**

① 空調送風機名称  (入力)	② 台数 [台]  (入力)	③ 1台あたりの 定格風量 [m <sup>3</sup> /h台]  (入力)	④ 変風量制御の有無  (選択)	⑤ 備考  (20文字まで)
HU-11 空調機	1	8959.6	無	
HU-12 空調機	1	7064.3	無	
HU-21 空調機	1	14990.1	無	
HU-22 空調機	1	12922.5	無	

図 4-7 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 C-4 空調送風機入力シート

- ・ 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 2-7) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 C-1) の各項目に情報を入力する。様式 2-7 において、様式 2-7：③空調機タイプが「空調機」である行について、次の処理を行う。これ以外の行については何も入力する必要はない。

様式 C-4：①空調送風機名称

→ 様式 2-7：①空調機群名称 +様式 2-7：③空調機タイプ を入力する。

様式 C-4：②台数

→ 様式 2-7：②台数を入力する。

様式 C-4：③1台あたりの定格風量

→ 様式 2-7：④定格冷却能力 を 172.3 倍 した値を入力する。

※ 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シートからは、1台あたりの定格風量は判らないため、定格冷却能力から風量を推定することとしている。この処理の適正化は今後の課題である。

様式 C-4：④変流量制御の有無

→ 様式 2-7：⑪風量制御方式が「回転数制御」であれば「有」と入力する。これ以外であれば「無」と入力する。

## 第5章 機械換気設備

様式 3-1. (換気)換気対象室入力シート

① 階 (転記)	① 室名 (転記)	① 建物用途 (転記)	① 室用途 (転記)	① 室面積 [m] (転記)	② 換気種類 (給気/排気/循環/空調) (選択)	③ 換気機器名称 (転記)
1F	便所1	事務所等	便所	33.28	排気	EF-1
1F	便所2	事務所等	便所	33.77	排気	EF-2
1F	物入	事務所等	更衣室又は倉庫	7.59	排気	EF-3
1F	給湯室	事務所等	湯沸室等	5.28	排気	EF-4
1F	休憩室	事務所等	更衣室又は倉庫	29.25	排気	EF-5
1F	機械室1	事務所等	機械室	164.3	排気	EF-6
					給気	SF-6

図 5-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 3-1(換気)換気対象室入力シート

様式 3-2. (換気)給排気送風機入力シート

① 換気機器名称	② 設計風量 [m <sup>3</sup> /h]	③ 電動機定格出力 [kW]	制御等の有無		
			④ 高効率電動機の 有無 (選択)	⑤ インバータの有 無 (選択)	⑥ 送風量制御 (選択)
EF-1	700	0.154	無	無	無
EF-2	700	0.154	無	無	無
EF-3	100	0.022	無	無	無
EF-4	300	0.066	無	無	無
EF-5	400	0.088	無	無	無
EF-6	4100	0.902	有	無	無

図 5-2 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 3-2(換気)給排気送風機入力シート

様式 3-3. (換気)換気代替空調機入力シート

① 換気機器名称	② 換気対象室の用途 (選択)	③ 必要冷却能力 [kW]	熱源		送風機			制御等の有無		
			④ 熱源効率 (一次換算値) [-]	⑤ ポンプ 定格出力 [kW]	⑥ 送風機の 種類 (選択)	⑦ 設計 風量 [m <sup>3</sup> /h]	⑧ 電動機 定格出力 [kW]	⑨ 高効率電動機 の有無 (選択)	⑩ インバータ の有無 (選択)	⑪ 送風量 制御 (選択)
PAC1	エレベータ機械室	4.5	1.25	0	空調	1000	0.05			
					排気	2000	0.44	有	有	温度制御
					給気	2000	0.44	有	有	温度制御

図 5-3 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 3-3(換気)換気代替空調機入力シート

様式D 換気入力シート

① 室名称 (入力)	② 室用途 (選択)	③ 床面積 [㎡] (入力)	④ 換気方式 (選択)	⑤ 機器名称 (入力)	⑥ 台数 [台] (入力)	⑦ 一台あたりの 送風量 [㎡/h台] (入力)	⑧ 一台あたりの 電動機出力 [W/台] (入力)	⑨ 高効率 電動機 (選択)	⑩ 送風量 制御 (選択)	⑪ 備考 (20文字まで)
1F 便所1	便所	33.28	第三種換気	EF-1	1	700	154	無	無	
1F 便所2	便所	33.77	第三種換気	EF-2	1	700	154	無	無	
1F 機械室1	機械室	164.3	第一種換気	EF-6	1	4100	902	有	無	
				SF-6	1	4100	902	有	無	
1F 機械室2	機械室	45.5	第三種換気	EF-7	1	1100	242	無	無	
2F 便所1	便所	33.28	第三種換気	EF-2-1	1	700	154	無	無	
2F 便所2	便所	33.77	第三種換気	EF-2-2	1	700	154	無	無	

図 5-4 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 D 換気入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 3-1、3-2、3-3) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 D) の各項目に情報を入力する。まず、表 5-3 に基づき計算対象となる「室用途」の室を識別し、この室についてのみ、以下の処理を行う。計算対象とならない室は、「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートには何も記す必要はない。

様式 D : ①室名称

→ 様式 3-1 : ①階 + 様式 3-1 : ①室名 を入力する。

様式 D : ②室用途

→ 様式 3-1 : ①建物用途、様式 3-1 : ①室用途 から、表 5-3 のように入力する。表 5-3 において、「様式 D : ②室用途」欄が「-」となっている室用途については、モデル建物法入力シートに転記する必要はない (モデル建物法では入力対象外)。

様式 D : ③床面積

→ 様式 3-1 : ①室面積 を入力する。

様式 D : ④換気方式

→ 同じ室に属する換気機器について、様式 4 : ②換気種類 の組合せに応じて、表 5-1 のように判断する。

表 5-1 換気方式の選択方法

様式 4 : ②換気種類 の組合せ	様式 D : ④換気方式
「給気」と「排気」が1つずつ以上ある。 または 「空調」がある。	第一種換気
「給気」しかない。	第二種換気

または 「給気」が1つ以上、それ以外は「循環」 しかない。	
「排気」しかない。 または 「排気」が1つ以上、それ以外は「循環」 しかない。	第三種換気
それ以外	エラー

様式 D：⑤機器名称

→ 様式 3-1：③換気機器名称 を入力する。

様式 D：⑥台数

→ 「1」とする。

様式 D：⑦一台あたりの送風量

→ 様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-2 から選択し、その該当機器の様式 3-2：②設計風量 を入力する。

もしくは、様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-3 から選択し、その該当機器について、様式 3-3：⑦設計風量 を入力する。複数行に跨がる場合は、その合計値を入力する。

様式 D：⑧一台あたりの電動機出力

→ 様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-2 から選択し、その該当機器の様式 3-2：③電動機定格出力 を 1000 倍した値 (kW から W に換算) を入力する。

もしくは、様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-3 から選択し、その該当機器について、様式 3-3：⑧電動機定格出力 を 1000 倍した値 (kW から W に換算) を入力する。複数行に跨がる場合は、その合計値を 1000 倍した値 (kW から W に換算) を入力する。

様式 D：⑨高効率電動機

→ 様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-2 から選択し、その該当機器の様式 3-2：④高効率電動機の有無 を入力する。

もしくは、様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-3 から選択し、その該当機器について、様式 3-3：⑨高効率電動機の有無 を入力する。複数行に跨がる場合は、1 つでも「有」であれば「有」を入力する。

**様式 D：⑩送風量制御**

→ 様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-2 から選択し、その該当機器の様式 3-2：⑥送風量制御の選択肢を元に表 5-2 のように入力する。

もしくは、様式 3-1：③換気機器名称 に該当する機器を様式 3-3 から選択し、その該当機器について、様式 3-3：⑪送風量制御 を入力する。複数行に跨がる場合は、1 つでも「温度制御」または「CO 濃度制御」があれば「有」を、それ以外であれば「無」とする。

表 5-2 送風量制御の選択方法

様式 3-2：⑥送風量制御 様式 3-3：⑪送風量制御	様式 D：⑩送風量制御
無	無
CO 濃度制御	有
温度制御	有

表 5-3 室用途の入力方法(機械換気設備)

様式 3-1：①建物用途名称	様式 3-1：①室用途名称	様式 D：②室用途
事務所等	更衣室又は倉庫	-
事務所等	便所	便所
事務所等	喫煙室	-
事務所等	厨房	厨房
事務所等	屋内駐車場	駐車場
事務所等	機械室	機械室
事務所等	電気室	-
事務所等	湯沸室等	-
事務所等	食品庫等	-
事務所等	印刷室等	-
事務所等	廃棄物保管場所等	-
ホテル等	客室内の浴室等	-
ホテル等	終日利用される共用部の便所	便所

ホテル等	終日利用される喫煙室	-
ホテル等	更衣室又は倉庫	-
ホテル等	日中のみ利用される共用部の便所	便所
ホテル等	日中のみ利用される喫煙室	-
ホテル等	厨房	厨房
ホテル等	屋内駐車場	駐車場
ホテル等	機械室	機械室
ホテル等	電気室	-
ホテル等	湯沸室等	-
ホテル等	食品庫等	-
ホテル等	印刷室等	-
ホテル等	廃棄物保管場所等	-
病院等	浴室等	-
病院等	終日利用される共用部の便所	便所
病院等	終日利用される喫煙室	-
病院等	更衣室又は倉庫	-
病院等	日中のみ利用される共用部の便所	便所
病院等	日中のみ利用される喫煙室	-
病院等	厨房	厨房
病院等	屋内駐車場	駐車場
病院等	機械室	機械室
病院等	電気室	-
病院等	湯沸室等	-
病院等	食品庫等	-
病院等	印刷室等	-
病院等	廃棄物保管場所等	-
物品販売業を営む店舗等	更衣室又は倉庫	-
物品販売業を営む店舗等	便所	便所
物品販売業を営む店舗等	喫煙室	-
物品販売業を営む店舗等	厨房	厨房
物品販売業を営む店舗等	屋内駐車場	駐車場
物品販売業を営む店舗等	機械室	機械室
物品販売業を営む店舗等	電気室	-
物品販売業を営む店舗等	湯沸室等	-

物品販売業を営む店舗等	食品庫等	-
物品販売業を営む店舗等	印刷室等	-
物品販売業を営む店舗等	廃棄物保管場所等	-
学校等	宿直室	-
学校等	更衣室又は倉庫	-
学校等	便所	便所
学校等	喫煙室	-
学校等	厨房	厨房
学校等	屋内駐車場	駐車場
学校等	機械室	機械室
学校等	電気室	-
学校等	湯沸室等	-
学校等	食品庫等	-
学校等	印刷室等	-
学校等	廃棄物保管場所等	-
飲食店等	更衣室又は倉庫	-
飲食店等	便所	便所
飲食店等	喫煙室	-
飲食店等	厨房	厨房
飲食店等	屋内駐車場	駐車場
飲食店等	機械室	機械室
飲食店等	電気室	-
飲食店等	湯沸室等	-
飲食店等	食品庫等	-
飲食店等	印刷室等	-
飲食店等	廃棄物保管場所等	-
集会所等	アスレチック場の運動室	-
集会所等	アスレチック場の便所	便所
集会所等	アスレチック場の喫煙室	-
集会所等	公式競技用スケート場	-
集会所等	公式競技用体育館	-
集会所等	一般競技用スケート場	-
集会所等	一般競技用体育館	-
集会所等	レクリエーション用スケート場	-

集会所等	レクリエーション用体育館	-
集会所等	競技場の便所	便所
集会所等	競技場の喫煙室	-
集会所等	浴場施設の浴室	-
集会所等	浴場施設の脱衣所	-
集会所等	浴場施設の休憩室	-
集会所等	浴場施設の便所	便所
集会所等	浴場施設の喫煙室	-
集会所等	映画館の便所	便所
集会所等	映画館の喫煙室	-
集会所等	図書館の便所	便所
集会所等	図書館の喫煙室	-
集会所等	博物館の便所	便所
集会所等	博物館の喫煙室	-
集会所等	劇場の便所	便所
集会所等	劇場の喫煙室	-
集会所等	カラオケボックス	-
集会所等	ボーリング場	-
集会所等	ぱちんこ屋	-
集会所等	競馬場又は競輪場の便所	便所
集会所等	競馬場又は競輪場の喫煙室	-
集会所等	社寺の便所	便所
集会所等	社寺の喫煙室	-
集会所等	厨房	厨房
集会所等	屋内駐車場	駐車場
集会所等	機械室	機械室
集会所等	電気室	-
集会所等	湯沸室等	-
集会所等	食品庫等	-
集会所等	印刷室等	-
集会所等	廃棄物保管場所等	-

## 第6章 照明設備

様式 4.(照明)照明入力シート

① 階 (転記)	① 室名 (転記)	① 建物用途 (転記)	① 室用途 (転記)	① 室面積 [㎡] (転記)	① 階高 [m] (転記)	① 天井高 [m] (転記)	室指数			照明器具仕様			制御等の有無				
							② 室の開口 率 [%] (転記)	③ 室の奥行 [m] (転記)	④ 室指数	⑤ 機器名称 (照明器具表の記号 等)	⑥ 定格消費 電力 [W/台]	⑦ 台数 [台]	⑧ 在室検知制御 (選択)	⑨ 明るさ検知制御 (選択)	⑩ タイムスケジュール制御 (選択)	⑪ 初期照度補 正機能 (選択)	
1F	風除け室	事務所等	廊下	21.12	5	2.6				ダウンライト	19.2	6					
1F	ロビー	事務所等	ロビー	114.12	5	3.5				ダウンライト	19.2	20					
1F	EVホール	事務所等	廊下	16.32	5	3.5				ダウンライト	19.2	6					
1F	中央監視室・賞讃室	事務所等	中央監視室	39	5	2.6				天井埋込下面ルーバー	88	6					
1F	更衣室1	事務所等	更衣室又は倉庫	14.63	5	2.4				天井埋込下面開放	45	2					
1F	更衣室2	事務所等	更衣室又は倉庫	14.63	5	2.4				天井埋込下面開放	45	2					
1F	休室	事務所等	更衣室又は倉庫	29.25	5	2.4				天井埋込下面開放	87	2					
1F	自販機コーナー	事務所等	廊下	25.87	5	2.6				ダウンライト	12.5	6					
1F	便所1	事務所等	便所	33.28	5	2.4				ダウンライト	7.4	12					
										天上直付笠なし	45	2					
1F	便所2	事務所等	便所	33.77	5	2.4				ダウンライト	7.4	12					
										天上直付笠なし	45	2					
1F	DS-PS1	事務所等	機械室	5.76	5	5				天上直付笠なし	45	2					
1F	DS-PS2	事務所等	機械室	14.4	5	5				天上直付笠なし	45	1					
1F	ES1	事務所等	機械室	8.64	5	5				天上直付笠なし	45	1					
1F	ES2	事務所等	機械室	9.6	5	5				天上直付笠なし	45	1					
1F	物入	事務所等	更衣室又は倉庫	7.59	5	5				天上直付笠なし	45	2					
1F	給湯室	事務所等	湯沸室等	5.28	5	2.4				天上直付笠なし	45	1					
1F	機械室1	事務所等	機械室	164.31	5	5				天上直付反射笠付	88	10					
1F	機械室2	事務所等	機械室	45.5	5	5				天上直付反射笠付	88	4					
1F	電気室	事務所等	電気室	50	5	5				天上直付反射笠付	45	6					
1F	事務室1	事務所等	事務室	352.5	5	2.6				天井埋込下面ルーバー	88	55					
1F	事務室2	事務所等	事務室	252	5	2.6				天井埋込下面ルーバー	88	40					

図 6-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 4(照明)照明入力シート

様式 E 照明入力シート

① 室名称 (入力)	② 室用途 (選択)	③ 床面積 [㎡] (入力)	④ 照明器具名称 (入力)	⑤ 消費電力 [W/台] (入力)	⑥ 台数 [台] (入力)	⑧ 省エネ制御			⑩ 初期照度補正 機能 (選択)	⑪ 備考 (20文字まで)
						⑦ 在室検知制御 (選択)	⑨ 明るさ制御 (選択)	⑨ タイムスケ ジュール制御 (選択)		
1F 事務室1	事務室	352.5	天井埋込下面ルーバー	88	55	無	無	無	無	
1F 事務室2	事務室	252	天井埋込下面ルーバー	88	40	無	無	無	無	
2F 事務室1	事務室	597	天井埋込下面ルーバー	88	95	無	無	無	無	
2F 事務室2	事務室	499.5	天井埋込下面ルーバー	88	80	無	無	無	無	
3F 事務室1	事務室	597	天井埋込下面ルーバー	88	95	無	無	無	無	
3F 事務室2	事務室	499.5	天井埋込下面ルーバー	88	80	無	無	無	無	
4F 事務室1	事務室	597	天井埋込下面ルーバー	88	95	無	無	無	無	
4F 事務室2	事務室	499.5	天井埋込下面ルーバー	88	80	無	無	無	無	

図 6-2 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 E 照明入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」の入力シート(様式 4)の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート(様式 E)の各項目に情報を入力する。まず、表 6-1 に基づき計算対象となる「室用途」の室を識別し、この室についてのみ、以下の処理を行う。計算対象とならない室は、「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートには何も記す必要はない。なお、様式 E:④~⑩については、1つの室に複数の機器がある場合は、複数行に分けて入力する。

様式 E：①室名称

→ 様式 4：①階+様式 4：①室名 を入力する。

様式 E：②室用途

→ 様式 4：①建物用途、様式 4：①室用途 から適切な室用途を選択 (表 6-1)

様式 E：③床面積

→ 様式 4：①床面積 を入力する。

様式 E：④照明器具名称

→ 様式 4：⑤機器名称 を入力する。

様式 E：⑤消費電力

→ 様式 4：⑥定格消費電力 を入力する。

様式 E：⑥台数

→ 様式 4：⑦台数 を入力する。

様式 E：⑦在室検知制御

→ 様式 4：⑧在室検知制御が「下限調光方式」、「点滅方式」、「減光方式」であれば「有」を、それ以外であれば「無」を入力する。

様式 E：⑧明るさ検知制御

→ 様式 4：⑨明るさ検知制御が「調光方式」、「調光方式(自動制御ブラインド併用)」、「調光方式 BL」、「調光方式 W15」、「調光方式 W15BL」、「調光方式 W20」、「調光方式 W20BL」、「調光方式 W25」、「調光方式 W25BL」、「点滅方式」であれば「有」を、それ以外であれば「無」を入力する。

様式 E：⑨タイムスケジュール制御

→ 様式 4：⑩タイムスケジュール制御が「減光方式」、「点滅方式」であれば「有」を、それ以外であれば「無」を入力する。

様式 E：⑩初期照度補正機能

→ 様式 4：⑪初期照度補正機能が「タイマ方式(LED)」、「タイマ方式(蛍光灯)」、「センサ方式(LED)」、「センサ方式(蛍光灯)」であれば「有」を、それ以外であれば「無」を入力する。

表 6-1 「様式4:①建物用途、様式4:①室用途」と「様式E:②室用途」の対応

様式1:⑦で指定されたモデル建物	様式E:②室用途	様式4:①建物用途	様式4:①室用途
「事務所モデル」	事務室	事務所等	事務室
「ビジネスホテルモデル」	客室	ホテル等	客室
	ロビー	ホテル等	終日利用されるロビー
		ホテル等	日中のみ利用されるロビー
	レストラン	ホテル等	レストラン
「シティホテルモデル」	客室	ホテル等	客室
	ロビー	ホテル等	終日利用されるロビー
		ホテル等	日中のみ利用されるロビー
	宴会場	ホテル等	宴会場
「総合病院モデル」	病室	病院等	病室
	診察室	病院等	診察室
	待合室	病院等	待合室
「クリニックモデル」	診察室	病院等	診察室
	待合室	病院等	待合室
「福祉施設モデル」	個室	病院等	病室
	診察室	病院等	診察室
	ロビー	病院等	終日利用されるロビー
病院等		日中のみ利用されるロビー	
「大規模物販モデル」	売場	物販店舗等	大型店の売場
		物販店舗等	専門店の売場
		物販店舗等	スーパーマーケットの売場
「小規模物販モデル」	売場	物販店舗等	大型店の売場
		物販店舗等	専門店の売場
		物販店舗等	スーパーマーケットの売場
「学校モデル」	教室	学校等	小中学校の教室
		学校等	高等学校の教室
		学校等	大学の教室
	事務室・職員室	学校等	事務室
		学校等	職員室
ロビー	学校等	ロビー	
「幼稚園モデル」	教室	学校等	小中学校の教室
		学校等	高等学校の教室
		学校等	大学の教室
	事務室・職員室	学校等	事務室
		学校等	職員室
ロビー	学校等	ロビー	
「大学モデル」	教室	学校等	小中学校の教室
		学校等	高等学校の教室
		学校等	大学の教室
	事務室・研究室	学校等	事務室
		学校等	研究室
ロビー	学校等	ロビー	

様式1：⑦で指定されたモデル建物	様式E：②室用途	様式4：①建物用途	様式4：①室用途
「講堂モデル」	アリーナ	学校等	講堂又は体育館
	ロビー	学校等	ロビー
「飲食店モデル」	客席	飲食店等	レストランの客室
		飲食店等	軽食店の客室
		飲食店等	喫茶店の客室
「アスレチック場」	運動室	集会所等	アスレチック場の運動室
	ロビー	集会所等	アスレチック場のロビー
「体育館」	アリーナ	集会所等	公式競技用スケート場
		集会所等	公式競技用体育館
		集会所等	一般競技用スケート場
		集会所等	一般競技用体育館
		集会所等	レクリエーション用スケート場
		集会所等	レクリエーション用体育館
	ロビー	集会所等	競技場のロビー
「浴場施設」	浴室	集会所等	浴場施設の浴室
	ロビー	集会所等	浴場施設のロビー
「映画館」	客席	集会所等	映画館の客席
	ロビー	集会所等	映画館のロビー
「図書館」	図書室	集会所等	図書館の図書室
	ロビー	集会所等	図書館のロビー
「博物館」	展示室	集会所等	博物館の展示室
	ロビー	集会所等	博物館のロビー
「劇場」	客席	集会所等	劇場の客席
	ロビー	集会所等	劇場のロビー
「カラオケボックス」	ボックス	集会所等	カラオケボックス
「ボーリング場」	ホール	集会所等	ボーリング場
「ぱちんこ屋」	ホール	集会所等	ぱちんこ屋
「競馬場又は競輪場」	客席	集会所等	競馬場又は競輪場の客席
	ロビー	集会所等	競馬場又は競輪場のロビー
「社寺」	本殿	集会所等	社寺の本殿
	ロビー	集会所等	社寺のロビー
「工場モデル」	倉庫	工場等	倉庫
	屋外駐車場又は駐輪場	工場等	屋外駐車場又は駐輪場

## 第7章 給湯設備

様式 5-1. (給湯)給湯対象室入力シート

① 階 (転記)	① 室名 (転記)	① 建物用途 (転記)	① 室用途 (転記)	① 室面積 [m] (転記)	② 給湯箇所 (給湯栓設置箇所)	③ 節湯器具 (選択)	④ 給湯機器名称 (転記)
1F	中央監視室・警備室	事務所等	中央監視室	39	便所1	無	EB2-11
					便所2	無	EB2-12
					便所2	無	EB2-13
1F	休憩室	事務所等	更衣室又は倉庫	29.25	便所1	無	EB2-11
					便所2	無	EB2-12
					便所2	無	EB2-13
					休憩室	無	EB1-11
1F	事務室1	事務所等	事務室	352.5	便所1	無	EB2-11
					便所2	無	EB2-12
					便所2	無	EB2-13
					給湯室	無	EB1-12
1F	事務室2	事務所等	事務室	252	便所1	無	EB2-11
					便所2	無	EB2-12
					便所2	無	EB2-13
					給湯室	無	EB1-12

図 7-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 5-1(給湯)給湯対象室入力シート

様式 5-2. (給湯)給湯機器入力シート

① 給湯機器名称	② 燃料種類 (選択)	③ 定格加熱 能力 [kW]	④ 熱源効率(一次 エネルギー換 算) [-]	⑤ 配管保温仕様 (選択)	⑥ 接続口径 [mm]	太陽熱利用			⑩ 備考
						⑦ 有効集熱 面積 [m <sup>2</sup> ]	⑧ 集熱面の 方位角 [°]	⑨ 集熱面の 傾斜角 [°]	
EB2-11	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-12	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-13	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB1-11	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB1-12	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-21	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-22	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-23	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB1-21	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-31	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				
EB2-32	電力	1.1	0.37	保温仕様2	20				

図 7-2 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 5-2(給湯)給湯機器入力シート

様式 F 給湯入力シート

① 給湯系統名称 (入力)	② 給湯用途 (選択)	③ 熱源名称 (入力)	④ 台数 (入力)	⑤ 定格 加熱能力 [kW/台] (入力)	⑥ 定格 消費電力 [kW/台] (入力)	⑦ 定格 燃料消費量 [kW/台] (入力)	⑧ 配管保温仕様 (選択)	⑨ 節湯器具 (選択)	⑩ 備考 (20文字まで)
中央監視室・警備	洗面・手洗い	EB2-11	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
		EB2-12	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
		EB2-13	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
1F 事務室1	洗面・手洗い	EB2-11	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
		EB2-12	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
		EB2-13	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	
		EB1-12	1	1.1	0	2.97	保温仕様2または3	無	

図 7-3 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 F 給湯入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 5-1) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 D) の各項目に情報を入力する。各給湯機器について以下の処理を行う。計算対象となる給湯機器がない場合 (様式 5-1 に何も記入されていない場合) は、「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートには何も記す必要はない。

様式 F : ①給湯系統名称

→ 様式 5-1 : ①階・室名 を入力する。

様式 F : ②給湯用途

→ 様式 5-1 : ①建物用途・室用途から、表 7-3 のように入力する。表 7-2 において、「様式 F : ②給湯用途」欄が「-」となっている室用途については、モデル建物法入力シートに転記する必要はない (モデル建物法では入力対象外)。

様式 F : ③熱源名称

→ 様式 5-1 : ④給湯機器名称 を入力する。

様式 F : ④台数

→ 「1」とする。

様式 F : ⑤定格加熱能力

→ 様式 5-1 : ④給湯機器名称 に該当する機器を様式 5-2 から選択し、その該当機器の様式 5-2 : ③定格加熱能力 を入力する。

様式 F : ⑥定格消費電力

→ 「0」とする。

様式 F : ⑦定格燃料消費量

→ 様式 5-1 : ④給湯機器名称 に該当する機器を様式 5-2 から選択し、その該当機器の様式 5-2 : ④熱源効率を調べる。様式 F : ⑤定格加熱能力をこの熱源効率で除した値を入力する (小数点以下第 3 位を四捨五入して、小数点以下第 2 位までの値とする)。

(例) 様式 5-2 : ③定格加熱能力 30kW、 様式 5-2 : ④熱源効率 0.82 の場合、  
 様式 F : ⑦定格燃料消費量 は  $30/0.82 = 36.59\text{kW}$

様式 F : ⑧配管保温仕様

→ 様式 5-1 : ④給湯機器名称 に該当する機器を様式 5-2 から選択し、その該当機器の  
 様式 5-2 : ⑤配管保温仕様 より表 7-1 のように入力する。

表 7-1 配管保温仕様の選択方法

様式 5-2 : ⑤配管保温仕様	様式 F : ⑧配管保温仕様
裸管	裸管
保温仕様 3	保温仕様 2 または 3
保温仕様 2	保温仕様 2 または 3
保温仕様 1	保温仕様 1

様式 F : ⑨節湯器具

→ 様式 5-1 : ③節湯器具 と様式 F:②給湯用途より表 7-2 のように入力する。

表 7-2 節湯器具の選択方法

様式 5-1 : ③節湯器具	様式 F : ②給湯用途	様式 F : ⑨節湯器具
自動給湯栓	洗面・手洗い	自動給湯栓
自動給湯栓	洗面・手洗い以外	無
節湯 B1	浴室	節湯 B1
節湯 B1	浴室以外	無
無	-	無

表 7-3 室用途の入力方法 (給湯設備)

様式 5-1 : ①建物用途	様式 5-1 : ①室用途	モデル建物法 様式 F : ②給湯用途
事務所等	事務室	洗面・手洗い
事務所等	電子計算機器事務室	洗面・手洗い
事務所等	会議室	洗面・手洗い
事務所等	喫茶室	厨房
事務所等	社員食堂	厨房

事務所等	中央監視室	洗面・手洗い
事務所等	更衣室又は倉庫	-
事務所等	ロビー	洗面・手洗い
ホテル等	客室	浴室
ホテル等	客室内の浴室等	浴室
ホテル等	終日利用される事務室	洗面・手洗い
ホテル等	終日利用されるロビー	洗面・手洗い
ホテル等	宴会場	洗面・手洗い
ホテル等	会議室	洗面・手洗い
ホテル等	結婚式場	洗面・手洗い
ホテル等	レストラン	厨房
ホテル等	ラウンジ	洗面・手洗い
ホテル等	バー	洗面・手洗い
ホテル等	店舗	洗面・手洗い
ホテル等	社員食堂	厨房
ホテル等	更衣室又は倉庫	-
ホテル等	日中のみ利用される事務室	洗面・手洗い
ホテル等	日中のみ利用されるロビー	洗面・手洗い
病院等	病室	浴室
病院等	浴室等	浴室
病院等	看護職員室	-
病院等	終日利用されるロビー	洗面・手洗い
病院等	診察室	-
病院等	待合室	-
病院等	手術室	-
病院等	検査室	-
病院等	集中治療室	-
病院等	解剖室等	洗面・手洗い
病院等	レストラン	厨房
病院等	事務室	洗面・手洗い
病院等	更衣室又は倉庫	-
病院等	日中のみ利用されるロビー	洗面・手洗い

物品販売業を営む店舗等	大型店の売場	洗面・手洗い
物品販売業を営む店舗等	専門店の売場	洗面・手洗い
物品販売業を営む店舗等	スーパーマーケットの売場	洗面・手洗い
物品販売業を営む店舗等	荷さばき場	洗面・手洗い
物品販売業を営む店舗等	事務室	洗面・手洗い
物品販売業を営む店舗等	更衣室又は倉庫	-
物品販売業を営む店舗等	ロビー	洗面・手洗い
学校等	小中学校の教室	洗面・手洗い
学校等	高等学校の教室	洗面・手洗い
学校等	職員室	洗面・手洗い
学校等	小中学校又は高等学校の食堂	厨房
学校等	大学の教室	洗面・手洗い
学校等	大学の食堂	厨房
学校等	事務室	洗面・手洗い
学校等	研究室	洗面・手洗い
学校等	電子計算機器演習室	洗面・手洗い
学校等	実験室	洗面・手洗い
学校等	実習室	洗面・手洗い
学校等	講堂又は体育館	洗面・手洗い
学校等	宿直室	浴室
学校等	更衣室又は倉庫	-
学校等	ロビー	洗面・手洗い
飲食店等	レストランの客室	厨房
飲食店等	軽食店の客室	厨房
飲食店等	喫茶店の客室	厨房
飲食店等	バー	厨房
飲食店等	事務室	洗面・手洗い
飲食店等	更衣室又は倉庫	-
飲食店等	ロビー	洗面・手洗い
集会所等	アスレチック場の運動室	-
集会所等	アスレチック場のロビー	洗面・手洗い
集会所等	公式競技用スケート場	-

集会所等	公式競技用体育館	-
集会所等	一般競技用スケート場	-
集会所等	一般競技用体育館	-
集会所等	レクリエーション用スケート場	-
集会所等	レクリエーション用体育館	-
集会所等	競技場の客席	洗面・手洗い
集会所等	競技場のロビー	洗面・手洗い
集会所等	浴場施設の浴室	浴室
集会所等	浴場施設の脱衣所	浴室
集会所等	浴場施設の休憩室	洗面・手洗い
集会所等	浴場施設のロビー	洗面・手洗い
集会所等	映画館の客席	洗面・手洗い
集会所等	映画館のロビー	洗面・手洗い
集会所等	図書館の図書室	洗面・手洗い
集会所等	図書館のロビー	洗面・手洗い
集会所等	博物館の展示室	洗面・手洗い
集会所等	博物館のロビー	洗面・手洗い
集会所等	劇場の楽屋	洗面・手洗い
集会所等	劇場の舞台	洗面・手洗い
集会所等	劇場の客席	洗面・手洗い
集会所等	劇場のロビー	洗面・手洗い
集会所等	カラオケボックス	洗面・手洗い
集会所等	ポーリング場	洗面・手洗い
集会所等	ぱちんこ屋	洗面・手洗い
集会所等	競馬場又は競輪場の客席	洗面・手洗い
集会所等	競馬場又は競輪場のロビー	洗面・手洗い
集会所等	社寺の本殿	洗面・手洗い
集会所等	社寺のロビー	洗面・手洗い

## 第8章 昇降機

昇降機については、様式1においてモデル建物への割り当てが行われていない。そこで、様式6：①建物用途に応じて、次のようにモデル建物を割り当てるものとする。ただし、該当するモデル建物の詳細が様式9に入力されていない場合についてはエラーとする。表8-1において、複数の候補が記されている建物用途については、その候補のうち、様式9に記されているモデル建物を選択する。様式9に記されているモデル建物が複数ある場合は、①を最優先とし、次いで②、③・・・の順で該当するモデル建物を1つ選択するものとする。

表 8-1 モデル建物選択の優先順位(昇降機)

様式 6:①建物用途	モデル建物
事務所等	事務所モデル
ホテル等	①ビジネスホテルモデル ②シティホテルモデル
病院等	①総合病院モデル ②福祉施設モデル ③クリニックモデル
物販店舗等	①大規模物販モデル ②小規模物販モデル
学校等	①学校モデル ②幼稚園モデル ③大学モデル ④講堂モデル
飲食店等	飲食店モデル
集会所等	①集会所モデル (アスレチック場) ②集会所モデル (体育館) ③集会所モデル (公衆浴場) ④集会所モデル (映画館) ⑤集会所モデル (図書館) ⑥集会所モデル (博物館) ⑦集会所モデル (劇場) ⑧集会所モデル (カラオケボックス) ⑨集会所モデル (ボーリング場) ⑩集会所モデル (ぱちんこ屋)

	①集会所モデル (競馬場又は競輪場) ②集会所モデル (社寺)
工場等	工場モデル

### 様式 6. (昇降機)昇降機入力シート

主要な対象室				② 機器名称 (機器表の記号等)	③ 台数 [台]	④ 積載量 [kg]	⑤ 速度 [m/min]	⑥ 輸送能力係数 [-]	⑦ 速度制御方式 (選択)
① 階 (転記)	① 室名 (転記)	① 建物用途 (転記)	① 室用途 (転記)						
7F	事務室1	事務所等	事務室	常用	2	800	60	1	VVVF(電力回生なし)
7F	事務室2	事務所等	事務室	常用	2	800	60	1	VVVF(電力回生なし)

図 8-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」 様式 6(昇降機)昇降機入力シート

### 様式G 昇降機入力シート

① 昇降機名称 (入力)	② 速度制御方式 (選択)	③ 備考 (20文字まで)
常用	可変電圧可変周波数制御方式(回生なし)	

図 8-2 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 G 昇降機入力シート

- 「エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)」の入力シート (様式 6) の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート (様式 G) の各項目に情報を入力する。計算対象となる昇降機がない場合 (様式 6 に何も記入されていない場合) は、「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートには何も記す必要はない。

#### 様式 G : ①昇降機名称

→ 様式 6 : ②機器名称 を入力する。

#### 様式 G : ②速度制御方式

→ 様式 6 : ⑦速度制御方式 を元に、表 8-2 のように入力する。

表 8-2 速度制御方式の選択方法

様式 6:⑦速度制御方式	様式 G : ②速度制御方式
VVVF(電力回生あり、ギアレス)	可変電圧可変周波数制御方式(回生あり)
VVVF(電力回生あり)	可変電圧可変周波数制御方式(回生あり)
VVVF(電力回生なし、ギアレス)	可変電圧可変周波数制御方式(回生なし)
VVVF(電力回生なし)	可変電圧可変周波数制御方式(回生なし)
交流帰還制御	交流帰還制御等

## 第9章 太陽光発電設備

太陽光発電設備については、様式1においてモデル建物への割り当てが行われていない。そこで、様式9において、様式9:②計算対象部分の床面積が一番大きいモデル建物に全ての太陽光発電設備が設置されていると仮定して入力シートの作成を行う。様式9:②が最大となるモデル建物が複数ある場合は、様式9において上段に記されているモデル建物を優先することとする。

### 様式 7-1. (効率化)太陽光発電システム入力シート

① 太陽光発電システム名称	② パワーコンディショナの効率 [-]	③ 太陽電池の種類 (選択)	④ アレイ設置方式 (選択)	⑤ アレイのシステム容量 [kW]	⑥ パネルの方位角 [°]	⑦ パネルの傾斜角 [°]	⑧ 備考
システムA	0.94	結晶系	架台設置形	12.2	0	30	

図 9-1 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」

様式 7-1(効率化)太陽光発電システム入力シート

### 様式H 太陽光発電入力シート

① システム名称 (入力)	② 太陽電池の種類 (選択)	③ アレイ設置方式 (選択)	④ アレイのシステム容量 [kW] (入力)	⑤ パネルの設置方位角 [°] (選択)	⑥ パネルの設置傾斜角 [°] (選択)	⑦ 備考 (20文字まで)
システムA	結晶系太陽電池	架台設置形	12.2	0度(南)	30度	

図 9-2 「モデル建物法入力支援ツール」 様式 H 太陽光発電入力シート

- ・ 「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」の入力シート(様式7-1)の情報から、「モデル建物法入力支援ツール」の入力シート(様式H)の各項目に情報を入力する。計算対象となる太陽光発電設備がない場合(様式7-1に何も記入されていない場合)は、「モデル建物法入力支援ツール ver.2」の入力シートには何も記す必要はない。

#### 様式 H: ①システム名称

→ 様式 7-1: ①太陽光発電システム名称 を入力する。

#### 様式 H: ②太陽電池の種類

→ 様式 7-1: ③太陽電池の種類 を入力する。

#### 様式 H: ③アレイ設置方式

→ 様式 7-1 : ④アレイ設置方式 を入力する。

様式 H : ④アレイのシステム容量

→ 様式 7-1 : ⑤アレイのシステム容量 を入力する。

様式 H : ⑤パネルの設置方位角

→ 様式 7-1 : ⑥アレイの方位角 を元に表 9-1 のように入力する。

表 9-1 方位角の選択方法

様式 7-1 : ⑥アレイの方位角	様式 H : ⑤パネルの設置方位角	参考
0 以上 15 未満、 345 以上 360 未満	0 度 (南)	真南から東および西へ 15 度未満
15 以上 45 未満	30 度	真南から西へ 15 度以上 45 度未満
45 以上 75 未満	60 度	真南から西へ 45 度以上 75 度未満
75 以上 105 未満	90 度 (西)	真南から西へ 75 度以上 105 度未満
105 以上 135 未満	120 度	真南から西へ
135 以上 165 未満	150 度	真南から西へ 135 度以上 165 度未満
165 以上 195 未満	180 度 (北)	真南から東および西へ 165 度以上真北まで
195 以上 225 未満	210 度	真南から東へ 135 度以上 165 度未満
225 以上 255 未満	240 度	真南から東へ 105 度以上 135 度未満
255 以上 285 未満	270 度 (東)	真南から東へ 75 度以上 105 度未満
285 以上 315 未満	300 度	真南から東へ 45 度以上 75 度未満
315 以上 345 未満	330 度	真南から東へ 15 度以上 45 度未満

様式 H : ⑥パネルの設置傾斜角

→ 様式 7-1 : ⑦アレイの傾斜角 を元に表 9-2 のように入力する。

表 9-2 傾斜角の選択方法

様式 7-1 : ⑦アレイの傾斜角	様式 H : ⑥パネルの設置傾斜角
0 以上 5 未満	0 度 (水平)
5 以上 15 未満	10 度
15 以上 25 未満	20 度
25 以上 35 未満	30 度

35 以上 45 未満	4 0 度
45 以上 55 未満	5 0 度
55 以上 65 未満	6 0 度
65 以上 75 未満	7 0 度
75 以上 85 未満	8 0 度
85 以上	9 0 度 (垂直)